

# 「ウーマン・イン・モーション」

## エミリー・ヤン

2022年5月27日

マノリ・ラヴィンドラン

皆さんこんにちは。ケリングの「ウーマン・イン・モーション」トークの最終回へようこそ。明日はカンヌ国際映画祭の最終日、そして授賞式です。私はヴァラエティ誌インターナショナル・エディターのマノリ・ラヴィンドランと申します。今日は素晴らしいゲスト、エミリー・ヤンさんをお迎えしてこちらにいます。エミリー・ヤンさんは、元グラフィックデザイナーで、現在は様々な分野のアーティストとして活躍をし、NFTのエキスパートでもあります。デジタル時代におけるアーティストについて、そして、Web3や分散型金融の現状についてお話しいただくと同時に、女性や有色人種の方がいかにしてこの分野をリードしているかについてもお話しいただきます。対談をとて楽しみにしています。皆さんお集まりいただき、ありがとうございます。

エミリーさん、お越しいいただきありがとうございます。そして、カンヌへようこそ。お元気でしょうか？

エミリー・ヤン

ありがとうございます。とても元気です。

マノリ・ラヴィンドラン

Pplpleasrがオンラインで大きく注目され、ご自身のさまざまな取り組みについても色々と存じ上げていましたので、今日お話しするのを楽しみにしていました。大作映画のグラフィックデザイナーとしてキャリアを始められたというのは、とても面白いご経歴だと感じますが、どのようにして始められたのでしょうか？

エミリー・ヤン

幼い頃から美術や絵を描くことが好きだったのですが、大学時代に初めて『ウォーリー』の映画を観てとても感動しました。エンドロールのクレジットに、技術的な立場で作品に関わる多くの人の名前が流れていくのを見て、「ああ、私もその一人になりたい」と思ったのです。それから、アニメーションやコンピューターグラフィックスの世界に関して色々と深く調べて、求人を見つけたのでそこに入ったという感じです。

マノリ・ラヴィンドラン

すごいですね。アップルとの大きな仕事が決まっていたと思いますが、パンデミックに見舞われ、コロナを理由にその仕事は中断を余儀なくされましたね。その時、どのようにして方向転換されたのでしょうか？

エミリー・ヤン

そうですね、決して楽な時期ではありませんでした。今から考えると「災い転じて福となる」と思えるのですが、当時はニューヨークに住んでいて、家賃を払いながら生活していましたし、ストレスを感じていました。職を失い失業保険をもらっていましたが、正気を保てたのは、インスタグラムのアカウントを立ち上げて、そこからPplpleasrが生まれたからだと思います。ただ作品を発表する場が欲しかったんです。というのも、

当時は就職のために面接や応募を延々と繰り返していた時期でした。1年以上仕事がない状態だったので、その間職探しをしていたことにはなりますが、競争がひどく、コロナのせいで世界経済もどうなるかわからず、仕事を得るには本当に大変な時期でした。だから、その時期に何かもっと生産性のあることに自分で取り組みたいと考えました。それまでは、新卒で働き始めてからノンストップで働いていましたから。仕事がないと、何をしたいかわからず、目的意識も持てませんでした。そこで、発表の場としてインスタグラムのアカウントを作って、初めて自分のために作品を作り始めたんです。それまでは、ハリウッドの大きなスタジオのために作品を作っていたので、そこで初めて生産的なことをやって、自分の人生を無駄にしないという感覚が生まれました。それと同じ頃、収入源になり得る何か他の方法はないかと考え始めました。そして2020年の夏に、DeFi、Decentralized Financeの略ですが、クリプト(仮想通貨)のサブセクターを見つけたんです。自分のスキルセットと仮想通貨の知識を組み合わせることで、この分野での自分の価値を高め、単に自分の収入を得る以上に役立てることができると思いました。それで、自分のメディアを使って、DeFiプロトコルを宣伝するためのアニメーションを作り始めました。すると口コミで広がって、次々に依頼がくるようになり、「これを仕事にできるかもしれない」と思うようになりました。

### マノリ・ラヴィンドラン

はい、ここに何かあるぞと。

### エミリー・ヤン

そうですね。

### マノリ・ラヴィンドラン

デジタルの世界では、ほとんどの人がエミリーさんをPplpleasrというハンドルネームで知っていると思います。面白いお名前だと思いますが、どのようにしてPplpleasrという名前が生まれたのでしょうか？

### エミリー・ヤン

Instagramのアカウントを作ったのがきっかけです。他の素晴らしいデジタル・アーティストの方たちが皆さん、とてもカッコいいアーティスト名を使っているのを見ってきました。私の名前は特に面白いわけでもユニークなわけでもないの、何かクールなアーティスト名にした方がいいんじゃないかと思ったんです。正直なところ、私は今のこの名前が大して好きとも思っていないくて、後でいつでも変えられると思っていました。でも、今はもう変えられないですね。ありがたいことに、まわりの皆さんも気に入ってくれていますので。

### マノリ・ラヴィンドラン

とても共感、理解しやすいお話だと思います。とても人間らしいというか.....。

### エミリー・ヤン

意図的ではなかったですね。私はとてもラッキーでした。

### マノリ・ラヴィンドラン

ご自身のアート活動の幅を広げ、NFTの世界やこの分野に足を踏み入れるためにどのようなことをされたのでしょうか？かなり違った分野だと思いますが。

### エミリー・ヤン

そうですね。多くの方が、この分野を超バカバカしいとか、大げさだと思っていると思います。メディアは、大げさな数字にばかり注目しています。ですが私にとってこのテクノロジーは、クリエイターにオンチェーン

でロイヤリティを生み出すことができるので非常に興味深いものです。NFTが可能にすることはたくさんありますが、それ以上に、NFTのアーティストになると、自分の収入や価値とか自己価値がすべて、オンラインで公開されているようで、とても不思議な感じがします。誰もが叩き出す数字だけで自分を判断するので、それが結構ストレスに感じることもあります。でも、それと同時に、大変興味深く、新しい分野でもあるので、多くの人が注目しています。私自身、2020年にDeFiのアニメーションを始めたとき、NFTにも同時に目をつけましたが、少しずつ色々なところで製作を始めました。でも、当時はまだ多くファンがいなかったもので、かなり安くて売れないこともありました。ですから、NFTの世界に入るというのはわりと勇気のいる決断でした。2021年の初め頃、Nifty Gatewayが大きくなり始め、The WeekndやGrimesなどのセレブリティがNifty GatewayでNFTを購入し始めました。NFTに対して、メインストリームから大きな津波のような関心が集まっていることに気がつき、どうすればこの波の一部になれるかと考えたのです。ですから、その時期に色々私自身も試して、初めてオークションをしました。その時まで一度もオークションというものをやったことがなかったのですが、オークションの面白いところは、価格が市場に委ねられることだと思います。ですから、その頃はNFTへの関心が間違いなくピークに達していた時期でした。あとは、私にはDeFiのキャリアがあったので、一定のファンのコミュニティをすでに獲得していました。仮想通貨に精通していて、それを使うことを厭わない人たちです。だからこそ、ちょうど良いチャンスだったのです。有名人だからといって、NFTでうまくいくとは限りません。フォロワーが何百人もいたとしても、おそらく仮想通貨で取引することはないでしょうから。私のファン層はすでにクリプトのネイティブでしたから、私にはちょっとしたアドバンテージがあったのです。そのチャンスを言い表すなら、それはまるで、野球のバットを構えて、ボールが落ちるのを見ながら、いつ打てるだろうかと考えていたようなものでした。幸いなことに、私はホームランを打ったんです。

### マノリ・ラヴィンドラン

本当にホームランだったと思いますし、最近というのがすごいことですね。まだ、ここ2年ちよつとの話ですよ？

### エミリー・ヤン

そうですね、業界自体の動きが速いからこそその結果だと思います。私たちはこれを「仮想通貨の時間拡張」と呼んでいます。仮想通貨の世界の1カ月が、現実の出来事の6カ月分に感じられるのです。この業界は常に変化していて、常に本当に速く動いています。

### マノリ・ラヴィンドラン

何となく想像はつきますが、NFTとは何かという点で、まだよく分からない部分があるようにも感じます。観客や一般の方々にとっては、NFTは何というか、まだ実態をつかめない、少し良く見えない部分があるように思います。こう言っているのか分かりませんが。

### エミリー・ヤン

間違いなくそうですね。これには、いくつかの理由があると思います。ひとつは、NFTはまだ登場して早い段階にあるということ。また、例えばシリコンバレーのようなビルダーや人々は、FacebookやInstagramのようなWeb 2.0製品が初めて登場したとき、すぐにそれを理解することはできなかったと思うんです。だから、私の仕事、私がここでやっていることというのは、メインストリームや、少なくとも私のアートやプラットフォームに対して、それを少しでも分かるように消化する手助けをすることだと思います。また、コンテンツをもう少し楽しいものにも心がけています。それは、DeFiでやっていたこととまったく同じです。DeFiはとても複雑で、直感ですぐには理解できないような概念がたくさんあります。ですから私は、ホワイトペーパーに書かれていることを、アートを使ってオーディエンスがより理解しやすいように、意味や親近感をもって伝える方法を考え出したのです。

### マノリ・ラヴィンドラン

なるほど、理解できました。NFTをまだよく理解していないという、ここにいらっしゃるオーディエンスや一般の方へ向けて、NFTとWeb3、そしてこの広い業界での位置づけをどのように説明されますか？

### エミリー・ヤン

Web3 は、インターネットを利用する人々によって運営、調整、構築、所有され、トークンを介して調整されるインターネット全体のことで、NFTはトークンの一種です。仮想通貨自体も、ビットコインもイーサリアムも、すべてトークンです。いずれもブロックチェーンを使って情報を保存しています。NFTのコンセプトをご説明するのに、「ネオペット」(Neopets)の話をしたと思います。世代にもよると思いますが、プレイしたことがある方はいらっしゃいますか？

### マノリ・ラヴィンドラン

はい、あります。

### エミリー・ヤン

これはとてもわかりやすいものです。子どもの頃に遊んだ「ネオペット」を通して、デジタル所有権の概念や、さまざまなデジタル商品の価値というものを理解しましたよね。これは、他のどのテレビゲームでも同じです。多くのゲームでは、例えば「ネオペット」で色々な種類のオムレツが用意されていて、レアなオムレツがあったり、他よりも高額なオムレツがあったりするよう、色々な種類のアイテムが用意されています。無料だったり、格安のオムレツも存在します。NFTも同じようなことです。私のようにノマド的な生活をしていると、移動が多いので、「もうそんなに物理的なものは要らない」と思うことがあります。NFTを導入することで、そうしたライフスタイルにも対応できるようになりました。コロナがこうした気持ちを加速させたのは間違いありません。コロナ期間中は、室内で過ごすことが多かったですね。それまではテレビゲームをあまりしなかったのですが、パンデミックの最中は家にいるしかなくて、ニンテンドースイッチのゲームやVR、メタバース系のオンラインゲームに出会って、自分の知らない別のデジタルワールドがあることに気づいたんです。願わくば、みんながずっと家の中にあるような未来にはならないでほしいですね。でも、それは間違いなくやってくることで、否定はできません。最近では、誰もがほとんどの時間をオンラインやデジタルデバイスで過ごしていると思います。ですから、少なくとも私たちは、このことをもっと理解するよう努力しなければなりません。

### マノリ・ラヴィンドラン

おっしゃるとおりですね。なぜアートがこのような形で活用されているのでしょうか？この領域はアートの世界と結びついていて、大変興味深く、クールなことだと思いますが、そのことでご自身は明らかにアドバンテージを得ていらっしゃるよう見受けられます。その二つにはどういったつながりがあるのでしょうか？

### エミリー・ヤン

アートはとても視覚的な媒体なので、人々にとって理解しやすいと思います。ですから、今も、NFT音楽について語るとき、アルバム(アート)が実際にはないと思えない人があると思うんです。それは、人間はとても視覚的な生き物だから、もし何かがなければ、つまりデジタル・ファイルについて考えるとき、もし実際に見るものがなければ、もしそれがビデオでなければ、人々との関係が薄れるからだと思います。だからこそ、アートがまず普及したのだと思いますが、インターネットやMP3ファイルのように、NFTの技術が日常生活に溶け込んでいけば、人々はアートの側面から離れて、例えばチケットや書類とか運転免許証など、さまざまなことに利用できることに気づくのではないのでしょうか。

### マノリ・ラヴィンドラン

面白いですね。続いて、ジェンダーについてはいかがでしょうか？このプログラムは、ケリングによる「ウーマン・イン・モーション」トークで、このトピックについて話をするには大変強力なプラットフォームですが、ご

自身の分野において男女のバランスや、そして民族の多様性について、色々な意見がある中で、あなたご自身はどうお考えでしょうか？

### エミリー・ヤン

仮想通貨のコミュニティに、性差別的なものはないと思います。匿名のインフルエンサーのアカウントがたくさん存在していて、ネット上で、プロフィール写真に例えばサルの写真だけをアップしている人たちがいることを見れば、それは明白です。あなたが誰なのか、どんな経歴なのか、どんな顔をしているのか、そうしたものは関係ありません。どんな考えやアイデアを提示しているかが重要なのです。確かに男女間の格差はありますが、これはテック業界が男性中心であることと、金融に興味がある人たち、つまり伝統的な金融に興味がある人たちの影響だと思います。基本的に、以前は男女の比率が高かったこれらの業界が融合しているのだと思います。私の仕事は、より多くの女性がこの分野に参入するよう促すことです。そして、こうしたことは今着々と実現しています。私自身の成功も、人々が性差別をしなかった結果によって得たものだと思います。私が誰であるかとか、どんな見た目をしているかということよりも、私の活動がイケてるかどうかをより、人は見たのだと思います。ですから、自分がとても幸運だったと感じますし、他の女性たちがまた、私の体験した足跡をたどり、Web3を構築するきっかけになればと願っています。

### マノリ・ラヴィンドラン

もちろんです。アートの世界ではどうなのでしょう？

### エミリー・ヤン

私にはいわゆる伝統的な、アートのバックグラウンドがあるわけではないですが、男女格差は確実に存在すると認識しています。私がアートシーンに初めて関わったのは、NFTをスタートしてからだと思いますが、既存のアート界でさえ、最も売れっ子のアーティストというのは間違いなく大抵が男性です。それは、男女差別があるからなのかは、よく分かりません。何か関連性はあると思いますが、誰もが自分自身をデジタル化することで、自分が誰であるか、どのような姿をしているかということが、より重要ではなくなっていくことを願っています。

### マノリ・ラヴィンドラン

分かりました。では、より多くの女性がこの分野へ参入することを促すために、ご自身ではどのようなことを行ってきましたか？

### エミリー・ヤン

私は、女性に焦点を当てた、今回のようなパネルディスカッションが好きです。もちろん、最近では、よりフェム(テック)に関連したことが多いですが、私は、カンヌで『Brut』とパートナーシップを組み、NFTを作っています。それで、USCアネンバーグ・インクルージョン・イニシアティブのためにステイシー・スミス博士と協働して、NFTを売って集めた資金で、映画監督になることを志望する女性や映画を学ぶ女子学生たちに奨学金を出したり、あとは色々と説明したりでしょうか。

### マノリ・ラヴィンドラン

とても素晴らしいことだと思います。一般的に見ても、女性の参画を促すに十分な取り組みだと思いますし、ご自身も明らかに大きな役割を果たされていますが、より広い視野で見ると、どのような取り組みが行われていて、また取り組みは充分だと感じますか？

### エミリー・ヤン

間違いなく、もっと必要です。私たちは常に、より多くの取り組みを必要としています。私たちは、少なくとも

100年以上にわたって続いてきた社会システム上の影響から脱却しようとしているわけですから。一夜にして変わることはありませんが、女性を教育したり、女性をより受け入れるために、より多くの努力が払われたりするのを今目にします。これは本当に励みになりますし、すべての分野について未来を楽観視できるようになります。これまで、沢山の素晴らしいオンラインコミュニティを見てきました。実際、仮想通貨の世界でもより女の子に優しい作りをしていて、私たちが好きな女子向け映画のスクリーンショットを使ったりします。仮想通貨の世界を、そういうふうに見せていくことは、本当に最高だと思います。『Boys Club』はその良い例で、より楽しく仮想通貨の世界に触れられるよう、女の子たちには、ぜひそういうものをチェックして欲しいと呼びかけています。

### マノリ・ラヴィンドラン

この『Brut』とのパートナーシップは、大変素晴らしいですね。『Brut』と協働し、USCNアネンバーグ・インクルージョン・イニシアティブにも取り組まれています。カンヌでの成果はどのようなものだと捉えていますか？

### エミリー・ヤン

まず、『Brut』は本当に素晴らしいパートナーです。とても協力的で、臨機応変に対応してくれますし、まだ取り組みは始まったばかりです。うまくいけば、パートナーシップが継続し、来年のカンヌまでには、奨学金を受けた女性たちが実際に何らかの活動ができるようになるのではないかと期待しています。ぜひ今後にご注目ください。

### マノリ・ラヴィンドラン

素晴らしいですね。NFTの分野でも、映画界全体でも、もっと色々な取り組みがなされていると思います。特にドキュメンタリーなどの分野では、この分野をもう少し活用しようという動きもあります。実際の取り組みをご覧になったことはありますか？まだこちらにいらして間もないですが、カンヌにいらしてから何か感じることはありますか？

### エミリー・ヤン

確実にまわりの人がこのことについて話をしていると感じますね。NFTの次の波は、おそらくそこに向かっているのだと思います。メディアとIPと長編コンテンツです。私自身もそうですが、この分野にはずっとかなり興味を寄せていました。今年の夏、私はNFTを使って、イーサリアムのドキュメンタリーをクラウドファンディングで制作しました。48時間以内に200万円以上の資金を集めました。つまり、2日以内にドキュメンタリーの資金がすべて集まり、1年近く経った今、すでに撮影が終わり、制作に取り掛かっている状態なのです。この経験は、仮想通貨を使ったクラウドファンディングの可能性について考えるきっかけになりました。仮想通貨は効率的であるがゆえに、映画製作者のためのリソースとして、どのように利用できるか、新しいアイデアを与えてくれたのです。このことについてもっと映画製作者の方々自身が話題にしてくれたら、とも思いますが、映画がNFTである必要があるとか、わりと多くの方がそういった考えを持っていると思いますが、私は、それは間違っていると思います。一つの映画のNFT一つを、一人の人間に500万ドルで売る、とかではないのですから。それでは意味がないです。どのようにしたら、NFTを映画製作を促進するためのユーティリティとして活用できるかということを目下考えていて、個人的にも模索しているところです。

### マノリ・ラヴィンドラン

なるほど、理解しました。ここカンヌでも、映画祭における女性の位置づけや、映画業界全体における女性の位置づけが話題になっていますね。様々な事件もあり、この話題は非常に深刻なものとなっています。あなたはどのようにお考えですか？また、ご自身はデジタル空間で活動するアーティストでいらっしゃいますが、映画界をご覧になって、女性にとっての進歩についてどのようにお感じになりますか？

### エミリー・ヤン

ゆっくりとですが、進歩はしていると思います。このようなイベントを通じて、もう少し動きを加速させることができればと思います。特に映画は、技術や他の産業と比べると、女性の参加という点で、特に女性監督や映画制作者において、今はまだものすごく遅れていると感じています。ですから、USCNアネンバーグ・インクルージョン・イニシアティブでは、そうした状況を変えたいと考えています。

### マノリ・ラヴィンドラン

おっしゃるとおりですね。イニシアティブは本当に多くの取り組みの最前線に立っていると思います。

### エミリー・ヤン

そうですね。私もとても刺激を受けています。

### マノリ・ラヴィンドラン

ソーシャルメディア上でも実はご質問を頂いています。インスタグラムでエマさんからご質問頂きました。「ジェフ・クーンズは、より伝統的なアーティストの一人ですが、昨年行われたamfARのガラに、初のNFTを制作、寄贈しました。色々なアーティストがこの新分野に参入できると思いますか？またそれがどのようにして起こると思いますか？」

### エミリー・ヤン

はい、どんなアーティストでも、素材とテクノロジーを理解すれば、この仮想空間に移行することができると思います。というのも、メディアはそうしたことにはあまり役には立たず、つまりNFTがいくらで売れたのか、「このNFTは数百万ドルで売れた！」と報道するだけで、欲深い人や金銭的な理由でこの世界にいる人など、多くの不要な注意を引きつけてしまうからです。もちろん、金銭的なプラス面はたくさんありますが、一般的に、この分野に移行してうまくいっている人たちは、金銭的なプラス面ではなく、この技術がなぜ革命的になり得るのかを本当に理解するための下調べをしている人たちだと私は思っています。

### マノリ・ラヴィンドラン

有機的だと感じられることが必要なんですね。

### エミリー・ヤン

はい、そして本物でなければなりません。

### マノリ・ラヴィンドラン

本物であることですね。まさしくその通りですね。どなたかエミリーさんへご質問がある方はいらっしゃいますか？では、1つどうぞ。

### 観客

こんにちは。先ほどオークションのことをおっしゃっていましたが、誰が落札したのか、知ることができれば知りたいです。あなたがやっていたオークションについてお話されていましたが、チャーリー・シュレム氏やコートニー・ワーナー氏らはDeFiにどのように関わっているのでしょうか？

### エミリー・ヤン

すみません、カンヌの『Brut』に関連したオークションのことでしょうか？

### 観客

はい、そうです。

**エミリー・ヤン**

まだ現在進行中ですが、NFTの実用化の一例として、カンヌのレッドカーペットや映画のプレミアへの参加を活性化させることができるという点がとてもすごいことです。ですから、今購入すれば、カンヌはもうすぐ終わってしまうので、記念にもなります。もしご興味があれば、後でリンクを貼っておきますので、ぜひご覧ください。NFTや販売先など詳細を見たい方がいれば、後でリンクを載せますね。

**マノリ・ラヴィンドラン**

ぜひお願いします。

**エミリー・ヤン**

そして、すみません、2つ目の質問は何でしたでしょうか？

**観客**

チャーリー・シュレム氏やコートニー、トネツリ氏はどのように関わっていたのでしょうか？

**エミリー・ヤン**

私はその方たちを存じ上げないです。

**観客**

本当ですか？今日のイベントの招待状を彼らから受け取りましたが。

**エミリー・ヤン**

amfARのことでしょうか？

**観客**

いいえ、違いますが、後で説明できるかもしれません。

**エミリー・ヤン**

分かりました。

**観客**

面白かったんですが…

**エミリー・ヤン**

そうですね、すみません、その方たちがどなたなのか分からないので…

**観客**

仮想通貨の世界の人たちです。

**エミリー・ヤン**

ああ、なるほど。分かりました。

**マノリ・ラヴィンドラン**

では、他にご質問はありますか？ないでしょうか。1つあるようですね。

**観客**

お話をありがとうございました。先ほどのお話にあった男女平等と差別について質問させてください。エミリーさんは、明らかに差別はないとおっしゃいました。ご自身は今ここにいて、仮想通貨やその他の非常に難しい分野で成功を収めたからこそ言えることかもしれません。そこで質問なのですが、女性への奨学金についても言及されていましたが、より女性的な表現についてお聞かせください。ご自身の作品の中にどのように女性らしさを足していますか？また若者、若い女性へのメッセージとして伝えたいことは何でしょうか？よろしくをお願いします。

**エミリー・ヤン**

面白い話があります。まだ初期の頃、私の作品に興味を持ってくれた方々と会話をした時、彼らは、私がそれまで気づけなかった「あなたの作品だけを見ていると、女性だとわかるわ」ということを話してくれました。その時、突然そのことがとても面白く思えて、どうしてなのかと聞いてみたら、男女の間には自然な違いがたくさんあるけれど、線や色の使い方が違うからだそうです。私の作品は、言葉で説明するのは難しいですが、確かに少し女性的だと思います。そうした違いが仮想空間を面白くし、また多様性を生んでいるのだと感じます。

**マノリ・ラヴィンドラン**

さっきのお話と同じですね。デジタルという仮面の裏に隠れてしまいがちですが、最終的には、ご自身の作品には、女性のためのエンパワメントというレンズを備えているのだと思います。

**エミリー・ヤン**

結局のところ、自分自身を表現するものなんですね。

**マノリ・ラヴィンドラン**

もちろんです。それでは、この辺で終わりにしたいと思います。エミリーさん、どうもありがとうございました。そして、カンヌデビューおめでとうございます。

**エミリー・ヤン**

ありがとうございます。

**マノリ・ラヴィンドラン**

そしてこの機会をくださったケリングにも御礼を伝えたいと思います。

**エミリー・ヤン**

ありがとうございました。

**マノリ・ラヴィンドラン**

ありがとうございました。